

森のひろば

近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>



弘法杉（和歌山県本宮町 大塔山国有林）

弘法大師が熊野詣での道中、大塔山の麓のこの場所で昼食を食べた後、土へ突き立てた箸が成長して、現在の二本の杉の大木となったと伝えられています。

【関連記事は、4頁】

森への誘い

近畿中国森林管理局ホームページでは、管内国有林の美しい風景や名勝、保護林、巨木などの貴重な動植物のほか、国有林における主な取組などの写真を毎月、スライド形式で紹介しています。第7回目は島根の国有林です。是非ご覧下さい。

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/kyoku>

INDEX

- 02 低コスト路網生産システムの
取組について
—販売課—
- 04 自然豊かな紀南 大塔山系の国有林
—和歌山森林管理署—
- 05 歴史と自然の息吹を感じる
「本山国有林」
—岡山森林管理署—
- 06 シリーズ 森林を守る
地域の皆さんとの連携
—治山課—
- 07 各署等の取組・行事の紹介



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を使用しています。

低コスト路網生産システムの取組について



丸太組工法



路網作設後の状況



現地検討会における造材作業の様子



現地検討会の様子

1 はじめに

管内のスギ・ヒノキを中心とする人工林は成熟期を迎えており、地球温暖化対策や国産材の安定供給等に資するため計画的な森林整備に取り組むこととしております。

一方で、長引く木材価格の低迷や国産材への原材料転換等の動きなどを踏まえれば、生産コストを低減し安定的な木材供給の仕組みを早急に確立する必要があります。

このため、効率的な列状間伐の実施や路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト路網生産システムの普及・定着について、近畿中国森林管理局の最重要課題の一つとして取り組んでいるところです。

2 これまでの取組

近畿中国森林管理局においては、平成18年度から有識者を交えた技術検討会の開催や職員・林業事業者・行政機関等を対象とした現地検討会の開催等を踏まえて低コスト路網生産システムの導入に取り組んできたところであり、具体的取組については次のとおりです。

(1) 森林・林業基本計画における位置付け

平成18年9月に策定された森林・林業基本計画において、施業を効率的かつ効果的に実施するため、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムを整備、普及及び定着を推進することとされたところです。

(2) 技術開発課題としての取組

森林技術センターでは、林野庁技術開発重点課題の取組として、平成19年度から平成21年度までの期間で、有識者を含む「低コスト路網を活用した効率的な間伐方法の確立」のための検討委員会を設置し、岡山森林管理署管内の古谷国有林をフィールドとして、低コスト路網と高性能林業機械を使用した伐採から搬出までの効率的な作業システムの確立に向けた検討を進めています。

(3) 関係者による現地検討会の開催

平成18年に岡山森林管理署管内の用郷山国有林において、府県担当者、森林組合、林業事業者、国有林関係職員等約220名の参加を得て、低コスト林業の必要性や高性能林業機械と低コスト路網による伐採・搬出がいかに生産性や効率性を向上させることができるかについて実感させることを目的として現地検討会を開催しました。この第1回目の現地検討会の成果をもとに毎年少しずつ内容を充実させた検討会に取り組んでいます。

(4) 試行的発注

低コスト路網生産システムの本格導入に向けて、仕様書に基づく事業発注が不可欠であることから、平成19年度に民有林での取組を参考に作成した「近畿中国森林管理局版としての低コスト作業路網仕様書」(以下、「仕様書」という。)に基づき試行的に低コストモデル林として発注(3箇所 兵庫・岡山・広島北部の各森林管理署)することとし、各々の箇所にて現地検討会を開催(参加者総勢370名)しました。

図1 低コスト路網生産システムにおける
林内の作業仕組例

近畿中国森林管理局低コスト路網生産システム集材路仕様書

1 スイングヤーダ型

伐倒	集材	造材	運搬
チェーンソー	スイングヤーダ	プロセッサ	フォワーダ
生産性 4 m ³ / 人日			

2 スイングヤーダ・グラップル併用型

伐倒	集材	造材	運搬
チェーンソー	スイングヤーダ グラップル	プロセッサ	フォワーダ
生産性 6 m ³ / 人日			

3 グラップル型

伐倒	集材	造材	運搬
チェーンソー	グラップル	プロセッサ	フォワーダ
生産性 9 m ³ / 人日			

- 1 規格構造
- (1) 設計車両等
0.45m 3 クラスの高性能林業機械（グラップル・スイングヤーダ等）及びクローラタイプ林内作業車（2 ～4 トン積程度）による6 m材の搬出を見込むものとする。
- (2) 幅員
全幅員で、3 m以下程度とする。
- (3) 曲線半径
最小6 mとする。
- (4) 縦断勾配
原則として、1 6 %以下とする。
- ただし、作業道が設置されていない事業地であって、地形・地質条件等により高低差のある集材路を設置しなければ集材作業が困難な場合にあっては、集材路の総延長の3 割程度を限度とし、原則として縦断勾配が2 5 %までの集材路を設置できるものとする。
- なお、集材路の設置にあたっては、集材路面が降雨水の流路とならないよう留意するとともに、水切り等をきめ細かく行うものとする。
- 2 路線設計
- (1) 路線計画
- ① 集材路は、等高線に沿って配置する。
- ② 集材路は、可能な範囲で循環路線とする。
- ③ 集材路の間隔は、斜距離で4 0 m程度を目安とする。
- (2) 構造物の設置予定
- ① 丸太組工、石積工等の簡易な構造物以外の構造物が必要な箇所は迂回する。
- ② 丸太組工、石積工等については、あらかじめ設置箇所を特定せず、施工者の判断に基づき発注者との協議の上設置する。
- 3 路体構造
- (1) 切土量・盛土量の均衡
- ① 原則として、片切片盛とし、切土量・盛土量の均衡に努め、土運搬を最小限にとどめるとともに、捨土を発生させないようにする。
- (2) 切土
- ① 原則として、切土高は1 . 5 m以下程度の直切りとする。
- (3) 盛土
- ① 盛土地盤の表面をかき起こして、なじみよくする。
- ② 原則として、一層当たり3 0 c m程度ごとに盛り立て、十分に転圧しながら積み上げ、きちんと締固めを行う。
- ③ 有機質や種子等がある表層部分については、盛り土外側（法表面）に配置し、早期緑化に努める。
- ④ 掘り取った伐根株等においては、路体の保持に有効利用する。
- (4) 丸太組工
- ① 急傾斜地や沢沿い等路体の保全に必要な箇所については、支障木を利用した丸太組工を施工する。
- (5) 洗越工
- ① 沢を横断する場合の排水施設は、基本的に丸太、転石などを活用した洗越工で施工する。
- 4 その他
- 事業後の林地保全のため、作業完了時に監督職員等の指示により集材路に水切りを施工する。

(5) 低コスト路網の導入指針の策定

これらの成果を基に、平成20年度に仕様書の一部改正（近畿中国森林管理局低コスト路網生産システム集材路仕様書）を行い、導入対象箇所、集材路の規格、作業仕組等からなる「近畿中国森林管理局低コスト路網生産システム導入指針」を作成し、森林管理署等で本格的に導入することとした。

(6) 全署における路網整備への取組

上記の導入指針に基づき全署において導入目標を定め、各署1箇所モデル林を設定することとしています。平成20年度には比較的地形の急峻な紀州地方における路網整備について、和歌山森林管理署の事業発注箇所において現地検討会を開催し、水処理、取付箇所の工夫、敷丸太による路面保護等現地の地形、地質等に応じて施工することにより作設可能となる旨の認識を得たところであり、引き続き林地の保全状況等について調査していくこととしています。

また、その他の森林管理署においても低コスト路網の普及・定着へ向けて独自に現地検討会を開催し、各方面から大きな反響を得ているところです。

3 低コスト路網の定着状況

平成20年度の森林整備事業については、59件を事業発注したところであり、急峻な地形条件から路網作設困難な箇所や受注者の施設の保有実態等から43件が路網による搬出となっていますが、引き続き現地検討会を開催するなど普及・定着に努めることとしています。

なお、これまでの取組により得られた低

コスト路網生産システムにおける林内の作業仕組及び生産性の一例を示せば図1のとおりです。

4 課題及び今後の取組

(1) 低コスト路網による採算性等の検証

低コストモデル林の実行結果については、列状間伐と高性能林業機械との作業仕組による作業効率や採算性に係るデータを収集・分析し、その概要を公表することにより、更なる低コスト路網の推進に資する必要があります。

また、森林技術センターにおける技術開発課題（課題名「低コスト路網を活用した効率的な間伐方法の確立」）の研究成果や各森林管理署等で開催した現地検討会におけるアンケート結果等を整理・公表し、これらの成果を踏まえて仕様書の内容改善に反映していく考えです。

(2) 効率的な路網整備

効率的な路網整備と計画的な森林整備に取り組む必要があります。

このため、引き続き民国連携による森林施業団地化を推進するとともに、森林計画、路網整備、森林整備の一層の連携を深めていくことが必要です。

(3) 集材路のメンテナンス

集材路については、林道のような恒久的施設ではなく次の間伐時に比較的簡易な補修等により再使用可能なものとして位置付けています。

このため、長期間使用しない間の豪雨時における林地への影響調査、集材路の管理のあり方等について引き続きモニタリングしていく必要があるものと考えています。

自然豊かな紀南

大塔山系の国有林

和歌山森林管理署 (38)

和歌山県南部（紀南）の東牟婁郡と西牟婁郡の分水嶺に位置する大塔山は紀南の最高峰（1122m）であり、この周辺の国有林は、大塔山、大杉大小屋、黒蔵谷、笹の瀬、前の川の五団地で、面積が合わせて約3千ヘクタールとなっています。

この地域は、海岸に近いために黒潮の影響を受け、年間降雨量が4千ミリメートルにも達し湿度が高く、夏が比較的涼しく冬が暖かいという気候に加え地形が複雑なことから、天然林は温暖帯照葉樹林域の中に冷温帯落葉樹林が見られるなど多様で複雑な林相となっています。

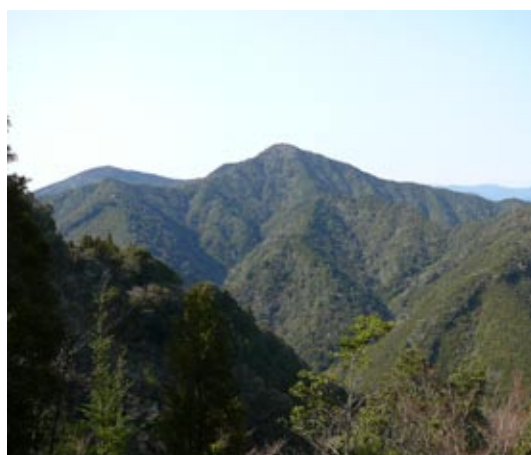
このため、黒蔵谷地域では、植物層が極めて豊富であり、植物分類学的な意味で「それはやき要素」^(注)といわれる日本古来の植物（トガサワラ、シロモジ、ヒメシヤラなど）がみられるなど日本の植物分布を考える上で、非常に貴重なものになっているため、「黒蔵谷森林生物遺伝資源保存林」として保護されています。

また、大塔山地域には、南紀地方を代表する照葉樹林を保護するための「大塔山照

葉樹林植物群落保護林」と大塔山山頂とその付近に本州南限のブナが生育する「大塔山モミ・ツガ・ブナ植物群落保護林」が設定されています。近年この山頂付近の保護林に接する天然林が誤伐された影響で、保護林縁の貴重な樹木が風害で枯れ始め、さらに二ホンジカの食害が森林再生を妨げています。ブナを中心とする多様な森林を再生・保護するため、和歌山森林管理署では和歌山県や地元市町、自然保護団体等による検討会を開催し、今年度に防風とシカの食害防止を兼ねた防護柵を作設するとともに、稚樹の発生を促すための地表処理（地がき）を行いました。今後も関係機関のご協力を得てモニタリングしながら豊かな植生の回復に努める考えです。

大塔山登山道の一つの入り口付近に国有林の「巨樹・巨木百選」に和歌山県で唯一選ばれた「弘法杉」が立っています。その昔、近在にオカメというおばあさんが住んでおり、そこへ弘法大師が訪れ、昼ごはんを食べようと茶を所望しました。お茶をいただき昼食を取った後、使用した箸を地面に突き立てておいたところ、やがて成長し

現在のスギの巨木になったという伝説があります。直径2メートル弱、樹高40数メートルの堂々とした姿で、2本並んでいるのは壮観です。大塔山国有林を源とする大塔川は、川原の露天風呂「仙人風呂」で有名な川湯温泉の川です。大塔山に登り多様な貴重な森林を満喫して頂いた後は、温泉で骨休めもよいのではないのでしょうか。



黒蔵谷国有林



大塔山の林相



写真：(右) 大塔山の清流
(上) 弘法杉

(注) 襲速^{そはや}紀^きと書き、襲^その国^{くに}(九州)、速吸^{はやすい}瀬戸^{のせ}(豊予海峡)、紀伊の国にわたって分布するという意味で名付けられ、九州中部山地から四国山地、紀伊山地を経て東海・伊豆地方の山地に広がる植物種

千六四六〇〇一一

和歌山県田辺市新庄町

二三四五一

TEL 〇五〇三一六〇六二〇

FAX 〇七三九二五五四三三

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/wakayama>

歴史・自然の息吹を感じる

「ほんざん本山国有林」

岡山森林管理署 ③9

本山国有林は、岡山県のほぼ中央部の美咲町（旧柵原町）に位置し、元々は天台宗岩間山本山寺の寺領でしたが、明治3年3月太政官布告によって上地され国有林となつたものです。

当国有林は、シイ・カシ類を主体とした暖帯林特有の原生林の姿をよくとどめており、岡山森林管理署では明治初期からこの地域を禁伐としてきました。さらに平成元年からは貴重植物の保護、保存のため区域面積約31haのうち約1/3（9.72ha）を林木遺伝資源保存林に指定し保護育成を図っています。

林内には、スギ、ヒノキ、モミ等の林齢約150年を超える大経木の針葉樹とアラカシ、アカガシ、シラカシ等の常緑広葉樹が混成しています。林内の植物相は豊富で約280種の自生が確認されており、その中には、県内の北限自生地となっている植物や、県内でも数カ所にしか見つからない珍しい植物が含まれています。このように貴重な植物が群生していることから、

本山寺の参拝者が訪れるほか、自然観察会等が開催が開催されるなど、多くの方に親しまれています。

当国有林に隣接する天台宗岩間山本山寺は、大宝元年（701年）佐伯有頼が、この山で狩をしてふしぎを感じ、出家して頼観と号し、寺を建て新山寺と名付け、その後、唐の高僧鑑真和上により、本山寺と改められたといわれています。

天永元年（1110年）、現在地に移転し、山上仏教の最盛時には120坊があったといわれています。また、長承元年（1132年）稲岡の庄（久米南町誕生寺）の漆間時国夫妻が参籠して子供を授け給えと祈り、生まれた勢至丸が、後の浄土宗の開祖・円光大師法然上人（源空）となったという有名な伝説があります。

建造物は本堂、三重塔、宝篋印塔等いずれも国の重要文化財に指定されるなど、岡山県きつての古建築集団で文化財の宝庫といわれています。



威風堂々とした三重の塔



保存林内の状況



本堂 寺内で最も古く、南北朝時代の観応元年（1350年）の建築といわれる

◆アクセス

岡山県久米郡美咲町定宗

JR津山線 弓削駅から 車15分

津山駅から 車30分

中国自動車道津山IC 車30分

〒708-0006

岡山県津山市小田中二二八一

TEL 085-316-0135

FAX 086-813-1150

<http://www.kinki-kokuyuri.go.jp/okayama>

地域の皆さんとの連携

これまで紹介してきましたように森林管理署・森林管理事務所では、山崩れや山火事跡地、海岸などに森林を早期に復旧させるため、治山工事により土留工など、不安定な土砂の移動を抑え、地面を安定させる施設を設置し、草・木の種子の播種、苗木の植栽を行っています。このとき、地域の住民の皆さんとの連携を進めており、今回はその様子を紹介します。

シリーズ第1回（平成20年7月）に登場した石川県手取川の源流「湯の谷」では、これまで26年間、石川県自然保護協会の会員の皆さんが、山腹工事箇所への苗木の植栽や苗木が成長する間の雑草木の刈り払いに活躍いただいています。今年度は9月28日に雑草木の刈り払い作業の後、11年前の植栽箇所をご覧いただいています。後日、同協会の横川会長から、白山に木を植え大きく育てる、26年目の想いをお伺いいたしました。

白山湯の谷にて

石川県自然保護協会 横川 幸男

昭和58年春先より始めた白山湯の谷の植林は石川森林管理署（当時は金沢営林署）と当石川県自然保護協会との間での交流は今年も続いている。

いつもの集合場所、白山市ノ瀬ビジターセンター前に予定より早く着いたので観察会を行う。程なく森林管理署の方たちも見えられたので時間は早いですが目的地に向かう。ゲートを抜けてこの場所は昨年手入れした所と同じところ。昨年初めて手入れをしたが入り口の草丈が高いススキ、2mを超えるワラビ、大鎌で大切なブナを傷つけないように草木を根元より刈り取る。此处は平成2年と8年二回にかけて石川県勤労者山岳連盟（石川労山）と合同で植林した所、今年も昨年に負けず劣らず草木の背丈が高い。休息時に中村課長さんより「午後からの予定の場所が都合が悪いので変更しませんか、白山湯の谷最突端近くの10年ほど前の植林地に」「賛成」

白山釈迦岳登山口を過ぎ湯の谷2号橋上、此处は平成9年にブナ、イヌコリヤナギを植えた所、当時私も植林に参加したが地肌はやや黄土色で剥き出し、勾配のある法面には手を架けるポイントも無い幅1.5m程の道？が在るだけ。石はあるが土は植える処に無い鉄棒とハツリハンマーで汗だくになりながら植え最後に遙か下の谷底より水をバケツリレーでより大きくなれよと祈りながら植えた思い出の場所。昼飯を済ませ辺りを散策すると、時期的に（9月末）花はやや終わりだがミヤマウスユキソウ、タカネヤマハハコ、大型の花が特徴のフジアザミ、ETC、色々楽しめる。以前の記憶を思い起こし植林地に。いきなりブナの丈2mを超えるのに出会う。辺りには小さいブナもヤナギは至る所にはえ、サプライズ。なぜかしら優しくなってきた。ダケカンバ、植えた覚えが無いよ。だが大きく育っている奥の平地でもブナ、イヌコリヤナギが根を下ろし、土も水も無い土地にしっかりと根付いている。長かった10年程私たちは何もしなかったが、私の想像を遥かに超えて育っていた。余計なススキが法面を覆い隠しているブナやヤナギ、ダケカンバがより大きく育つ為に刈りたい。他の人達に考えを聞くと同じく「下草かりをしたい、出来れば秋に年間の行事として」

今後とも森林管理署と連携して白山に木を1本でも植え大きく育てたい。



11年前の植栽箇所(右から4人目が横川会長)



「ボランティア高津川森の会」「喜阿弥自治会」の皆さんなど100名が苗木330本植栽（平成20年11月2日、島根県益田市：若山国有林）



「七里御浜松林を守る協議会」の呼びかけにより地域の皆さん160名が苗木400本植栽（平成20年11月15日、三重県熊野市・御浜町・紀宝町：七里御浜国有林）



公募による参加者30名が苗木200本植栽（平成20年5月18日、福井県敦賀市：松原国有林）

各地の海岸沿いの国有林では、潮風や飛砂の被害から家屋や農地を守ってくれる森林を復旧しようと、地域の住民の皆さんが、苗木の植栽などに活躍いただいています。今年度は福井県、三重県、島根県などの国有林で、森を守り・育てる活動をされている皆さんや、公募による参加者が苗木植栽などに活躍いただきました。

各署等の取組・行事の紹介

学習発表会で松林の大切さを演じる



【石川森林管理署】2月1日、加賀市立黒崎小学校の5・6年生児童が、同校で行われた学習発表会で、当署が実施した森林教室、森林観察会を授業の研究材料として活用した「みんなで守ろう私たちの自然」松林の危機というタイトルの劇を上演しました。

同校に近い海岸部の浜山・加賀海岸国有林は、近年マツクイムシによる被害が顕著となり、その対策に努力しているところで



マツクイムシの被害状況を演じる児童 森林管理署職員に扮した児童も登場

すが、先に行った森林教室・森林観察会では、松林の重要性と、防風・砂防林としての現在の松林を造成した先輩達の苦勞を紹介し、また、現在のマツクイムシ被害対策状況を説明したところです。

今回の発表会は、児童がその内容を理解したうえで、さらに自分たちで調べたことを劇に仕立てたもので、スライドによる説明を織り交ぜながら、来場者に分かり易く説明するなど、児童みんなの気持が伝わる素晴らしい内容の発表でした。



自然休養林でのスタンプラリーで242通の応募

【滋賀森林管理署】大津市と栗東市にまたがる近江湖南アルプス自然休養林（一丈野地区）において、管理運営協議会（代表



集まった応募ハガキと抽選の様子



宮浦富保龍谷大学教授）の主催による「森とのふれあいスタンプラリー」が7月21日～11月30日の期間行われました。

スタンプラリーは去年に引き続き2回目です、昨年の応募数は84通でしたが今年は242通と去年と比べて激増しました。その要因は9月以降から応募数が増えてたことから、ラリー期間を秋の行楽シーズンまで延ばしたこと、積極的なPR効果から利用者認知されたこと等があげられます。

また、応募ハガキの感想から応募年齢は40歳以上の割合が高く、主に中高年層は登山道をハイキングする傾向にあることがわかりました。一方でファミリーなど若年層は自然休養林でハイキングより水場近くでの食事を楽しむ利用が多い傾向となっていました。

今後も管理運営協議会は、年齢層のニーズ等嗜好に合わせた活動を積極的に展開していきます。



低コスト路網生産システム現地検討会を開催

【和歌山森林管理署】坂泰山国有林において低コスト路網生産システムによる間伐の現地検討会を開催しました。

今回の検討会を開催した箇所の所在する和歌山県は急峻な地形が多く、今でも架線系を中心とした伐採を行っている地域ですが、このような急峻な地形が多い紀州の山

においても、木材の低価格の現状に対応する必要があるため、今回、簡易で壊れにくい集材路と高性能機械を組み合わせた「低コスト路網生産システム」を導入し、林業生産のコストダウンを図りもって間伐などの森林整備を促進することを目的に、現地検討会を開催したものです。

当日は、あいにくの雨ながら約100名の参加者となりました。

現地では、現場で作業を行っている（株）前田商行 前田章博社長から工夫した箇所や苦勞した箇所の説明を受けました。

具体的には、木組みを減らし作業を簡易にするため、路肩の一部に1t土嚢を利用したことや、根株の利用や表土ブロックなども取り入れたこと、さらに軟弱地盤箇所には、小径木の丸太を敷き沈下を防ぐと共に、谷渡りは洗い越しとしたことなどです。



検討会の様子と路肩処理の状況



集材システムは、グラップル（一部スイングヤーダー）で集材、プロセッサで造材、フォワーダーで搬出する車両系を採用していました。

参加者からは「土囊の作設工程は?」「集材路の単価は?」等の質問が出る真剣な討論が行われました。

当署では今後も、和歌山県、森林組合等と共同で集材路作設の技術の熟練度を上げるための研修等を実施し、急峻な地形の和歌山県にあう「低コスト路網生産システム」の開発、普及、定着を図っていく方針です。



「古事の森」で森林整備

【奈良森林管理事務所】11月15日、「春日奥山古事の森」育成協議会（会長：春日大社権宮司 岡本彰夫）が主催する森林整備等のイベントが地獄谷国有林（奈良市高畑町）で、開催されました。

古事の森は、日本の文化を守り伝えるためには、その象徴と言うべき神社・仏閣、橋梁、民家等の伝統的木造建造物を将来にわたって維持・承継していくことが重要であり、その定期的な修復に必要な資材を安定的に供給すると共に、それらの伝統的建造物の保全に果たしてきた森林の役割を広く国民に理解されることを目的に林野庁が地域と連携して設置しているものです。

公募により大阪などから集まった16名の

参加者が、「古事の森」の現地で下草刈りを行い汗を流した後、森林散策で春日奥山石窟仏や首切り地藏等の文化財を見て廻りました。

午後からは、春日大社に場所を移し宮司の案内で参拝した後に春日大社の岡本権宮司さんの「春日大社と春日山原始林との深い関わりなどについて」の講演が行われました。

参加者からは、「この木が使われる時には当然自分は生きていないけれど、400年の長いスパンをこれからやっていく、それにちよつとでも参加できたことが、何とも言えない気持ちになった」「石窟仏などの貴重な文化財に触れられただけでなく、春日大社の権宮司さんにも貴重なお話しをして頂き有意義な日でした」などの感想が聞かれました。



下草刈りに汗を流す参加者

今後も育成協議会では、参加者を募り、「古事の森」の森林整備や普及啓発のためイベント等を催していく予定です。



高校生を対象に森林環境教育を通じた入庁案内

【兵庫森林管理署】11月4日から5日の2日間にわたり、県立山崎高校森林環境科学科の1年生37名及び2年生30名を受け入れ、森林環境教育を実施しました。

当署では、国有林野事業の将来の担い手となり得る若者を対象に、森林・林業の現状や国有林野事業の概要について理解を深め、進路決定の一助としてもらうことを目的に、昨年度から署独自の取組として森林環境教育を通じた入庁案内を実施しています。



植林作業を体験する生徒

1年生には、パンフレットにより国有林野事業の概要を説明しました。また、森林保護の重要性を理解するため、管内の音水国有林で林木遺伝資源保存林を見学し、遺伝的に貴重な実粟スギを後世に残して行くことの意義を学んでもらいました。

2年生には、マンガ谷国有林において植林体験を実施しました。職員の指導の下、背中に苗木袋を担ぎ、袋から取り出した苗木を一本一本丁寧に植えました。約1時間の作業で汗を流すとともに、国土緑化の重要性を理解してもらいました。

引率の先生からは、今回の体験を通して、生徒からぜひ森林管理署に何名か就職してもらいたいとの声も上がり、生徒達と近い将来同じ職場で顔を合わせることを期待し、終了しました。

お知らせ

皆さまにご愛読いただいております「フォレスト・ニュース森のひろば」は、来月号をもって印刷物による配布を取りやめ、5月号からはホームページ及びメールマガジンでの配信となります。

今後とも、より良い紙面づくりに努めて参りますので引き続きご愛読の程、よろしくお願い申し上げます。

ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

メールマガジンの配信手続き

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/kyoku/mai/mai-magazine.html>